

組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 学生支援センター

組織目標		達成状況(成果)					
教 育		達成度:	4	3	2	1	
		達成度:	4	3	2	1	
研 究		達成度:	4	3	2	1	
		達成度:	4	3	2	1	
セ ン タ ー 業 務	<p>[学生相談]</p> <p>○鹿田地区を含めた学生相談体制の充実を図る。 ○新入生の保護者を対象としたアンケート調査を実施する。 ○カルト被害防止のための啓発活動を行う。</p> <p>[障がい学生支援]</p> <p>○ノートテイクの育成を継続的に行い、聴覚障がい学生の支援体制の充実を図る。 ○研究会や障がい疑似体験行事などを通して障がい学生支援の啓発活動をおこなう。 ○学内バリアフリーマップを改訂する。</p> <p>[学生生活支援]</p> <p>○各種奨学金支給団体の秋期入学者への奨学金制度の有無について調査を行う。 ○経済的理由での休学・退学を防止するために、大学が仕事を創出し学生を雇用することについて検討する。 ○学生の経済的支援の一環として、緊急貸付制度についても検討する。 ○研究奨励金制度の実施に伴い必要に応じて制度の見直しを検討する。</p> <p>[課外活動支援]</p> <p>○課外活動施設の危険度・老朽度等による順位付けを行い改修等の可否を検討する。 ○交通マナーの啓発をおこなう。</p>	<p>[学生相談]</p> <p>○今年度から鹿田地区の相談室(週2日開室)に、非常勤カウンセラーを配置した。昨年度に比べて鹿田地区の相談件数は増加しており、相談室設置の効果が認められた。 ○新入生の保護者を対象としたアンケート調査を実施した。調査結果及び今後の課題等について整理し、各部局に報告した。 ○学生をカルト被害から守るための啓発活動の一環として、研修会の開催、「学生相談室だより」でのカルト特集記事、新入生サークル勧誘活動における腕章の着用等の指導などおこなった。</p> <p>[障がい学生支援]</p> <p>○ノートテイク育成のため、昨年3回の養成講座を開催した。 ○障がい疑似体験行事や障がい学生が所属する部局の担当教員との連携を通して、障がい学生支援の啓発活動をおこなった。 ○学内バリアフリーマップを改訂した。 ○障がい学生支援体制の充実を図るために、2月1日付けで准教授を採用した。</p> <p>[学生生活支援]</p> <p>○秋期入学制度導入のための調査票を各種奨学金支給団体に送付し、アンケート調査を実施した。 ○学生が学内でできる業務について、各部局にアンケートを行い、結果を取りまとめた。 ○学生の経済的支援の一環として、緊急貸付制度についても検討した。 ○研究奨励金制度について、学生生活支援部会で検討し、支給対象学会等を拡大するとともに、支給時期の変更等より学生を支援できるよう、規定の改正を行った。</p> <p>[課外活動支援]</p> <p>○課外活動施設について改修等の可否を検討し、津島地区では、サークル棟パート練習室の防音壁修理、体育館バスケットボールコートライン改修(ルール改正対応)、教育学部体育館屋根改修、鹿田地区では、製氷機設置、弓道場屋根改修、BOX棟防音工事を行った。 ○交通マナー指導としては、入学式直後に警察の協力を得て、53号線大学筋入り口交差点で自転車マナー指導を行った。また、4月及び10月には、自転車マナー啓発のチラシを学内で配布した。 ○今年度から鹿田地区の相談室(週2日開室)に、非常勤カウンセラーを配置した。昨年度に比べて鹿田地区の相談件数は増加しており、相談室設置の効果が認められた。 ○新入生の保護者を対象としたアンケート調査を実施した。調査結果及び今後の課題等について整理し、各部局に報告した。 ○学生をカルト被害から守るための啓発活動の一環として、研修会の開催、「学生相談室だより」でのカルト特集記事、新入生サークル勧誘活動における腕章の着用等の指導などおこなった。</p>	達成度:	④	3	2	1
	社 会 貢 献	○津島地区周辺の町内会長との懇談会を実施し、必要に応じて学生による地域の清掃活動への協力等を検討する。	○津島地区周辺の町内会長との懇談会を5月と10月に開催した。また、9町内会の清掃活動に対して学生の協力があった。	達成度:	4	③	2
【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。							

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせ設定した領域・指標により修正してください。